

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイビーキッズ布田		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 6日 ～ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38人	(回答者数) 35人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 20日 ～ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的アプローチと多職種連携による個別計画に基づく確実な支援	外部講師を招いた専門研修等を定期的に実施し、高い専門的知識と技術を持ったスタッフによる丁寧な直接支援を行っています。 個別支援計画（児童発達支援計画）に基づき、目標に応じたプログラムを立案・実施するとともに、多職種連携（ケース会議等）を通じて客観的な分析を行っています。 保育園訪問を積極的に行い、担任保育士等の関係機関と直接情報を共有・連携する体制を築いています。	計画作成プロセスにおいて、「どのような分析に基づいて目標設定を行ったか」の客観的根拠を提示し、保護者様とのより深まりのある合意形成と納得感の醸成に努めます。 常に最新のお子様の状態（今のお姿）に最適化された支援へとアップデートし続けられるよう、職員の観察力と支援スキルの向上を図ります。
2	保護者様ニーズに応える情報提供と卒業生座談会等の家族支援	アイビーキッズを卒業した小学1年生の保護者様を招いた座談会・懇談会を開催し、就学や生活面での貴重な情報交換の機会を提供しています。 日頃から子育ての悩みや相談に親身に応じ、温かく共感的な関わりを心がけています。	お仕事等で平日の集まりに参加しにくい保護者様にも配慮し、オンライン形式の活用や送迎時の短時間ミニレクチャー等、気軽に参加・相談しやすい工夫を企画してまいります。 保護者様同士の懇談の場に加え、ご兄弟姉妹も参加できるイベント等の検討を進め、ご家族全体へのサポートを拡充いたします。
3	個人情報保護・プライバシー配慮への迅速な見直しと安全管理体制	各種マニュアル（事故防止・防犯・非常災害・感染症等）に基づく訓練を実施し、ヒヤリハットの共有・分析を通じて未然防止に努めています。 保護者様からの個人情報や作品掲示に関するご要望に対し、即座に掲示方法の運用変更を行うなど柔軟な対応力を発揮しています。	作品掲示時におけるフルネーム記載を廃止し、イニシャルやマーク表記・裏面記載への切替を徹底し、プライバシー管理を厳守いたします。 事故未然防止に全力を尽くすとともに、万一の発生時にも迅速かつ丁寧な対応と説明を徹底します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育室（運動スペース等）の活用と利用時間帯・集団プログラムの工夫	利用時間帯や同時に通所するお子様の人数（3名時等）によって、運動スペースや活動時間が制限・時間差となってしまう場面がありました。 お仕事をお持ちの保護者様から「共働きでも通わせやすい時間帯（集団・療育枠の設定）にしてほしい」というご意見をいただきました。	空間の仕切りや活動プログラムの流れ（一緒にできる活動の組み合わせや時間配分）を見直し、限られたスペースでも各お子様が十分な運動量と個別課題を確保できるよう創意工夫を重ねます。 今後の運営計画やスタッフ採用・配置の中で、多様な勤務スタイルの保護者様が利用しやすい時間帯設定について前向きに検討を重ねてまいります。
2	日々のフィードバックにおける「お子様の課題・家庭での取り組み」の共有不足	お迎え時などの情報共有において、お子様の良い点や出来たことの共有が中心となり、「現在直面している課題」や「家庭で取り組める具体的なアドバイス」についての伝達が不十分となるケースがありました。	送迎時の短い時間であっても、お子様の成長（良い変化）だけでなく「今どんな課題に向き合っているか」「ご家庭でできる具体的な働きかけ」を定期的にお伝えするよう、スタッフ間での声かけ・フィードバックの共有手順を徹底いたします。
3	担当スタッフの引き継ぎ・コミュニケーションと活動プロセスのマンネリ化防止	スタッフのシフト変更や引き継ぎにより、「お子様の理解や連続性のあるアプローチ」に対して保護者様が懸念を感じられる場面がありました。 プログラム内容が一部固定化・マンネリ化して見えてしまうことがありました。	朝礼・終礼・記録システムを通じたスタッフ間のお子様情報の引き継ぎ精度を高め、誰が担当しても統一された質の高いアプローチと理解に基づく支援を行える体制を確立します。 遊びや興味・関心を引き出す工夫を取り入れ、プログラム内容に変化と新鮮さを持たせるようチームで立案・見直しを実施します。